

# 『MKR』民(民有林)国(国有林)連携



山形県寒河江市 佐竹弘一  
Saito Naoto

「父ちゃんて何(なに)仕事(しごと)すったんだ?」「木(き)きい(植(う)えて空(そら)と水(みづ)、作(つく)ったなよ。」「もうがっか?」「100年(ねん)ただねど、わがんなあ...。」「息子(こ)が小学校(しょうがっこう)に入った頃(ころ)の会話(かいわ)です。」

先祖(せんぞ)代々(だいだい)、山村(やまむら)で農林業(のうりんぎょう)を営(営)む家に生(な)まれた私は、小さい頃(ころ)より里山(りさん)(民有林(みゆうりん))の恩恵(おんけい)を受け育(そだ)ちました。杉三(すぎさん)代(だい)(約(やく)100年(ねん))当時(たうじ)は木材(もくざい)価格(かかく)が安(やす)定(てい)しており木材(もくざい)生(せい)産(さん)で得(と)れた収益(しゆい)で生活(せいかつ)し伐採跡地(ばくさいせきち)に植林(ちくりん)する余(あま)裕(よ)さえありました。懐(なつか)かしい話(わたり)です。祖父(そふ)が「植林(ちくりん)し、父(ちち)が「育林(いくりん)し、私(わたし)が「恩恵(おんけい)を得(と)るといつた、他の業種(ぎやうしゆ)では考(かんが)えられない「長(なが)いスパン」の経営(けいぎやう)が「林業経営(りんぎやうけいぎやう)」なのです。しかし、現在(げんざい)は木材(もくざい)価格(かかく)の下落(げたふ)により、収益(しゆい)は伐採(ばくさい)するまで費(たか)やした経費(けいひ)の半分(はんぶん)にすぎない赤字(せきじ)経営(けいぎやう)なのです。

また、現在は山村(やまむら)の過疎化(かそくか)や木材(もくざい)価格(かかく)の低迷(だいち)により里山(りさん)への関心(かんしん)が薄(うす)れ、5、6年前(ねん)前に認定(にんてい)を受けた山形県(やまがたけん)「林業士(りんぎやうし)」の任務(にんむ)である「地域の模範(もはん)となる林業経営(りんぎやうけいぎやう)」(後継者(ごけいしや)の育成(いくせい)「県民(けんみん)への森林学習(そんりんがくしゆ)」なる活動(かどう)が困難(くわんなん)な状況(じきやう)にあります。人工林(じんこうりん)において最も重要(じゅうじやう)な保育管(ほいくくわん)理(り)(育林(いくりん))が行(か)われず、「森林(そんりん)荒廃(くわいはい)」が深刻(しんこく)化(か)しています。

適切な時期(しつじ)に適切な保育管(ほいくくわん)理(り)をして行(か)かないと、未来(みらい)に大きな汚点(おごんてん)を残(のこ)すことになるのは明白(めいびやく)です。木材(もくざい)生(せい)産(さん)だけにこだわらず「100年(ねん)先の自然環境(しぜんかんげい)」のあり方(ありかた)を見据(み)え森林(そんりん)整備(せいび)をする必要がある(ひつじやくがある)と思います。また合(あ)わせてそうした「教育環境(きやうくわんげい)」の整備(せいび)も必要(ひつじやく)だと思(おも)います。

こうした中(なか)、平成(へいせい)25年(ねん)11月(げつ)、山形県(やまがたけん)知事(ちじ)が県内(けんない)市町(しちやう)村長(むらぢやう)の賛同(さんどう)を得(と)て「やまがた里山(りさん)サミット」を設立(せつり)しました。地域の豊(とよ)かな森林(そんりん)資源(しゆげん)を「森(もり)のエネルギー」「森(もり)の恵(めぐみ)」として活(か)かしていく「森林(そんりん)(モリ)ノミクス」を宣(のたま)言(い)し、林業(りんぎやう)の振興(しんきやう)を図(とら)ながら、地域(ちいき)の雇(雇)用(よう)を創(つく)出し、地域(ちいき)活(活)性(せい)化(か)に向けて取(と)り組(く)みを進(すす)めています。昨年(さくねん)11月(げつ)には、この「森林(そんりん)(モリ)ノミクス」を全(ぜん)国(こく)に発信(はつしん)し、さらなる林業(りんぎやう)の振興(しんきやう)、地域(ちいき)活(活)性(せい)化(か)に結(むす)び付(つ)けていくことをねらいとして、「第(だい)一回(かい)全(ぜん)国(こく)森林(そんりん)ノミクスサミット in 山形(やまがた)」開催(かいさい)したことを紹介(せうかい)します。

そうした中(なか)で、国民(こくみん)の意見(いけん)を反映(はんえい)した取(と)り組(く)みの一(いち)環(わん)として「国有林(こくゆうりん)モニター制度(せいど)」があると知(し)り2年(ねん)間(かん)(国有林(こくゆうりん)と(民有林(みゆうりん))が共有(きやうがい)できることがある(あ)るのでは(では)と学(まな)びました。

国土(こくど)の7割(なな割)を森林(そんりん)が占(あ)める中(なか)、国有林(こくゆうりん)と民有林(みゆうりん)が同じ(おな)じ山側(やまがは)の意見(いけん)として共有(きやうがい)できる事項(じきくわん)をまとめ、これ(こ)れま(ま)での木材(もくざい)生(せい)産(さん)を重視(じゆうし)するのはなく、森林(そんりん)の持(も)つ公益(こうい)的(てき)機能(きかんとく)の重要性(じゆうじやうせい)を訴(こ)え多くの人(ひと)の理解(りかい)を得(と)ながら、100年(ねん)先の自然環境(しぜんかんげい)のあり方(ありかた)を見据(み)え森林(そんりん)整備(せいび)をすす(すす)め次(つぎ)世代(せだい)に引(ひ)き継(つ)いでい(い)かなければ(なければ)と切(き)に思(おも)います。